

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 6 8
2008(平成20)年6月28日(土)発行

ねじばな・桜花
(もじずり)

<94年前の1914(大正3)年6月28日は、第一次世界大戦が始まる「サラエボ事件」の日>
バルカン半島のボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボを訪問していたオーストリアの皇太子夫妻は、セルビア人青年により暗殺。この事件を契機に「欧州大戦争」が勃発し、27カ国が参戦。戦死者約1,000万、戦傷者3,000万人。一般国民を巻き込んだ史上初の総力戦で、飛行機、タンク、毒ガスなども初めて使用され、被害を大きくした。

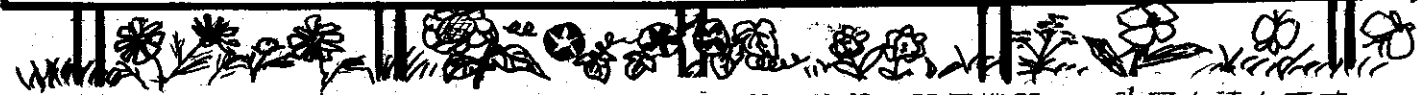
大看板はこんなふうになります！ 8月10日ごろに完成します！



世界は憲法9条をえらび始めた

あなたは9条を変えて戦争に行きますか？

はらまち九条の会



看板は○原町区錦町県道「ココス」さんの向かい側に建設。関係機関への許可申請中です。
○大きさは横4.5m・幅90cm。勿論美しいカラーの看板で、鉄骨作りです。
○完成予定は、63回目の「終戦記念日」の2008年8月15日。

建設経費の「カンパ」(一〇五〇〇円以上)のご協力をお願いいたします！

○看板に描く文言「世界は憲法9条をえらび始めた」は、5月に幕張メッセで開催の「9条世界会議」のキャッチコピー「世界は9条をえらび始めた」から採り、「あなたは9条を変えて戦争に行きますか？」は、岩波ブックレット『憲法を変えて戦争に行こう』の本のタイトルから採りました。



○分かり易い「憲法9条を守ろう」や「憲法9条は世界の宝」なども候補にあがりましたが、「どういう意味？」とあえて疑問を持ち考えていただくような文言の方に決めました。如何でしょうか。

○看板の建設予定経費は25万円で、7月15日現在、85名から約11万円が集まっています。引き続き、さらにもう十歩！まだまだの募金が必要です。物価高の折恐縮ですが、ご賛同の方は事務局員に直接お届けください。お名前や金額は公表せず、領収書はご希望により発行します。

大看板の文言「世界は憲法9条をえらび始めた」はどんな意味？

事務局から説明(50分)します。そして皆さんで語り合ひましょう！

第3回学習会 8月10日(日) 原町区本町銘醸館で

- ◆8月10日(日)、午後2時半頃、まず「大看板を見る会」その頃看板は完成していますので、大看板の立つ・原町区錦町ココスさんの向かい側に集合してください。駐車できますが事故注意。
- ◆その後、会場の銘醸館へ向かう。「学習会」は午後3時～5時。直接、会場の銘醸館に行かれてもけっこうです。
- ◆学習会の内容は、大看板の文言「世界は憲法9条をえらび始めた」の意味や、今なぜ世界の国々は9条を望んでいるのか、本当に9条って大切なものなのかを、事務局局長山崎健一から50分程度で説明させていただきます(上手に説明できるか、不安です！)。その後、皆さんで話し合ひましょう。
- ◆どなたでも参加大歓迎です！勿論、コーヒーとケーキ550円は自己負担。
- ◆会場の片隅で、静かに「無言館・ミニミニ絵画12枚の展示会」を開催。B4版サイズ・カラーです。
- ◆昨年12月2日の第2回学習会は参加者25名でした。今回ははたして、10人？いや5人？3人？どうでしょう？



◇コーヒーをいただきながら、楽しい気楽な会にしましょう！
◇人数確認のため、参加希望者は事務局員に事前にご連絡をください。

相馬中学校（現・相馬高校）卒業生 戦没画学生 富田重昌さんの絵

東京美校（東京芸大）在学中に出征、戦死

○富田重昌（とみだしげまさ）さんは、大正7年、4人兄妹（長男重延・二男重幸・妹淑子）の三男として相馬市に生まれました。昭和10年3月に相馬中学校（現・相馬高校）を卒業。病気療養のため遅れて昭和16年に、全国から英才が集まる東京美術学校（現・東京芸術大学）油絵科に入学し、絵を描くことに大きな夢と希望と喜びをもって学んでいました。

しかし、体が弱く徴兵検査は不合格だったのですが、自ら血判状を書いて出征します。そして昭和19年12月2日、志半ばで、現在のインドネシアのセレベス（スラウェシ）島のケンダリーで、アメリカ軍攻撃機の機銃掃射で無念の戦死。わずか26歳の若さでした。

この絵は重昌さんの兄の富田重幸（中学校美術教師）さん、さらにその長男の富田重孝（重昌さんの甥・高校美術教師）さんに保管されてきました。現在、「無言館」への寄贈も考えておられるそうです。

「無言館に収納しても良い」

- ◆先月発行の『九条はらまち』65号で、長野県上田市の「無言館」を紹介しましたが、同じように画学生で学びの道半ばで戦場で命を落とされた若者が相馬市にもおられます。
- ◆「裸婦」と「自画像」の油絵を残された富田重昌さんですが、ご家族にお話を伺うことができました。この紙面コピーは白黒で残念ですが、色合いも優しくあたたかい作品です。
- ◆相馬高校創立100周年の記念誌「相高100年の美術」の表紙を飾り、そのなかの富田さんの実の妹、西内淑子（よしこ）さんの寄稿文の言葉に胸が痛みます。
- ◆作品は既に「無言館」の調査を受けていて、「無言館に収納しても良い」とご家族は話されています。

▼富田重昌さんの18歳の自画像



十八歳の自画像

▼2000年3月に発行された「相高100年の美術」の表紙を飾る富田重昌さんの作品

相馬高校創立百周年記念事業の一つとして、美術関連の同窓生約七十名の作品が掲載された、全国でも注目の圧巻の記念誌です。（B5版・カラー・七五ページ）



▼兄の富田重昌さんについて、妹西内淑子さんの寄稿文（「相高100年の美術」より）

兄、重昌は昭和十六年東京美校油絵科に入学。田辺至教室で学びました。高校の頃大病を患い、長い療養生活の後でしたので喜びも一入でした。時には神とも仰ぐ藤島武二先生をお尋ねしたり学友と共に将来を夢見ながら楽しく画学生の道を歩んで居りました。それなのに、思いがけない召集令状で海兵団に入団。昭和十九年十二月にセレベス島のケンダリーで戦死してしまいました。遺作を見る度に、明るく優しくあった兄の無念さを偲び、妹の私は涙して居ります。

（妹 西内 淑子 記）